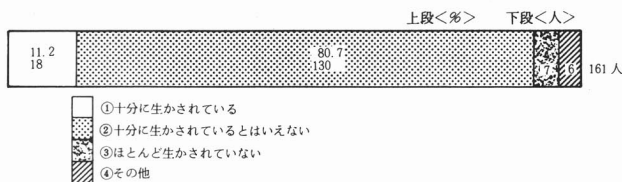


〈設問13〉 あなたの学年・学級経営では、個の特性が活かされていると思いますか。

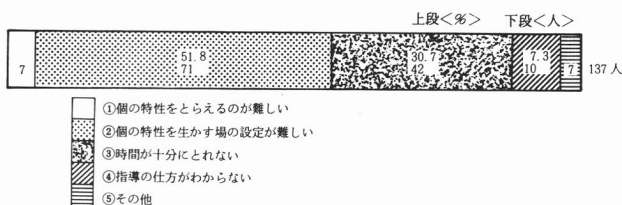
(学級担任のみ)

全体傾向 (図3-9)

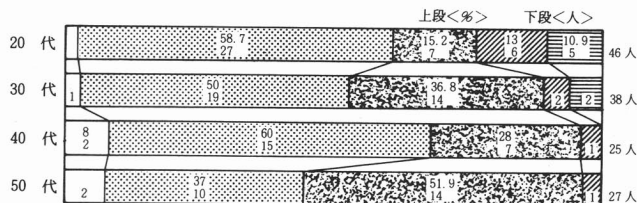


〈設問14〉 上の設問で「活かされていない」「十分に活かされていると言いきれない」と答えた方は、どのような理由からですか。(学級担任のみ)

全体傾向 (図3-10)



年代別傾向 (図3-11)



〈 考 察 〉

全体傾向 (設問13)

図3-9からわかるように、①学年・学級で個の特性が活かされているに答えた割合は約11%である。このことから、各学級の生徒の個性が活かされていないことがわかる。

全体傾向 (設問14)

図3-10からわかるように、設問13の②と③に答えた教師の理由として「場の設定が難しい」が約52%と過半数を占めている。次に「時間が十分とれない」の約31%である。

中学校の教師は教科担任制のため、個々の生徒と接する場と時間が少ない実態がうかがえる。

年代別傾向 (設問14)

図3-11からわかるように、②場の設定では、40代、20代、30代、50代の順になっている。50代では、時間の不足をあげ、他の年代と異なる傾向

を示している。20代では、④に13%の回答があり、他の年代に比べ、指導の仕方に困難を感じている教師が多い。

問題点

- 学年・学級経営の中で個の特性が十分に活かされていないと考えている。
- 個の特性が活かされない理由として、場の設定の困難さと時間の不足をあげる教師が多い。

改善の方向

- 学年・学級経営の中で個の特性を生かすための具体的な場と時間の確保が必要である。